

## 「批正」を念頭に

2 5 1 1 1 3

先日の三河校長会で、「研究授業の協議会が優しくなった。授業者に対して褒めることに偏り過ぎていないか」と話題が出されました。昨今の状況（ハラスメントの問題等）から、厳しいことを伝えることが躊躇されることを指し、大切なことが議論されずにスルーされていくことが、子どもたちの前に立ち、指導していく立場の私たちにとってそれでいいのか、若い先生たちにとって幸せなのか。といった話になりました。

その際に、「**批正**」（ひせい）という言葉が示されました。

「批正」とは、問題点として感じられる部分を指摘する「批判」とは異なり、問題点を指摘し、さらにそれを訂正する。

「問題点を共有して、よりよくしていく」という意味です。来年度の研究発表会に向けて、研究授業に取り組んだり、研究理論について様々な話し合いが行われていますし、これからも進められていくと思います。そのときに、相手に敬意を払い、「批正」という考えを念頭に置き、みんなで一緒に正しいもの、より良いものを創り出していくこと。そんな研究授業、研究の歩みにしていきたいなと思いました。よろしくお願いします。